

平成 21 年度

チェンマイ大学看護学部 来日研修報告書

# 平成 21 年度 チェンマイ大学看護学部学生来日研修

## 報告書 目次

1. 研修参加者
2. 来日研修概要
3. 研修報告
4. 交流風景
5. 国際交流委員名、作成月日など

## 1 . チェンマイ大学看護学部 研修参加者

**Assistant Professor Dr. Thitinut Akkadechanunt** (看護学部長補佐)

**Ms. KESINEE AUDKOM**(2年)

**Ms. NATTAKARN INPANBUTH**(2年)

**Ms. WARATID INSORN**(2年)

**Ms. NATTHANICHA WIANGKHAM**(3年)

**Ms. SUTHATIP PORNRATCHAROEN**(3年)

**Ms. PITCHANAN CHANAPHON**(3年)

**Ms. GUO JING**(3年)

## 2 . 研修日程(2009年10月4日～10月11日)

日	時	内容	東邦大学研修担当者等
10/4 (日)	8:10 午後	成田 到着 (TG642) 浅草	量倫子、佐山理絵 学生ボランティア
10/5 (月)	9:00  14:00  18:00	オリエンテーション 学科紹介・学内案内 東邦大学医療センター大森病院見学 歓迎会 (河南科技大学研修生と合同)	高木廣文学科長 国際交流委員 伊東和子看護部副部長 岡田敦子、佐山理絵 看護学科教職員
10/6 (火)	9:00 13:15 放課後	国際看護学：小林国際クリニック見学 成人看護学：講義、東邦大学医療センター大森 病院救命救急センター見学 観光	佐山理絵 林直子 学生ボランティア
10/7 (水)	9:00 13:15 放課後	小児看護学：講義、東邦大学医療センター大森 病院小児科病棟見学 国際看護学：講義、学生との文化交流 観光	飯村直子 高木廣文、佐山理絵 学生ボランティア
10/8 (木)	10:30 12:45 放課後	基礎看護学：学内演習 (1年生) に参加 (台風にて2限より参加) 地域看護学：講義、大田区大森地域庁舎見学 観光	遠藤英子、竹内千恵子、野崎真奈美 美ノ谷新子 学生ボランティア
10/9 (金)	9:00 13:15 16:30 放課後	家族生殖看護学：講義、東邦大学医療センター 大森病院産婦人科病棟見学 精神看護学：講義、東邦大学医療センター大森 病院精神科病棟見学 修了証授与式、写真撮影 茶道見学	齋藤益子、野々山未希子 山城久典 看護学科教職員 学生ボランティア
10/10 (土)	終日	東京ディズニーランド観光	学生ボランティア
10/11 (日)	11:00	成田 出発 (TG641)	量倫子、佐山理絵

### 3 . 研修生を受け入れて

精神看護学研究室 山城久典

精神看護学研究室では、10月9日午後の2時間半程度の研修を担当させていただいた。引率のDr. Thitinut Akkadechanunt と7人の看護学生に対して、約1時間の講義と、それに続く大森病院精神神経科病棟の見学を実施した。講義では、わが国の精神保健医療の概要も紹介したいと考え、日本の精神保健医療の歴史、精神科医療における入院形態、病院・地域における精神看護の活動内容、という三つの観点から講義させていただいた。

最初の精神保健医療の歴史については、わが国の現在の状況に至る道のりを伝えるために、薬物療法が行われる以前の精神科医療と、昨今の地域共同作業所等の活動を写真で紹介した。前者で主に紹介したのは、大正時代に行われた持続浴(持続的温浴によって精神疾患の興奮状態を鎮静する治療法)や警察官による患者輸送方、家族が自宅で精神障害者の保護・隔離を行った私宅監置についてである。次に、各種入院形態を題材にして精神障害者の医療について説明した。患者自身の同意に基づいて入院が行われる任意入院が6割以上を占めていることや、自傷他害のおそれのある者を入院させる措置入院は減少傾向にあり、2006年では1%未満であったこと等を紹介した。特に1995年の精神保健福祉法の制定以後は、患者の人権に配慮した医療が行われつつあることを強調した。また、精神看護の活動内容については、入院から退院後の生活まで引き続き留意すべき項目を示した。具体的には、睡眠・食事・服薬等の基本的な日常生活上の援助や、退院後の生活で必要とされる他者との良好な関係性の維持と社会資源を適切に活用する際の援助方法についてである。講義の前半は、研修生の知識や経験が十分に把握できなかったために戸惑いを感じたが、引率の先生が英語とタイ語の通訳で手助けしてくださり、また、学生との質疑応答を交えることによりお互いに馴染むことができたと思う。数名の学生はすでに精神看護学の講義と実習を履修しており、講義内容の理解は概ね的確であったと思う。

講義後の病棟見学では、英会話に堪能な看護師が本学の精神看護学実習の初日オリエンテーションと同様に案内して下さった。研修生は大森病院の他の病棟見学も経験していたこともあり、臆することもなくリラックスした雰囲気であった。病棟内のドアに貼られた流行のキャラクターを見て、嬉々として日本語で「カワイイ！」を連発することも見られた。しかし、短時間の見学では説明が難しい場面もあった。例えば、重篤な患者が入室する保護(隔離)室は、単に special room for serious patients という説明に留まり、看護師が実践している保護(隔離)室の使い方の工夫まで十分に伝えられず歯がゆい思いが残った。

研修を担当させていただいて後に感じたことは、講義と実習のテーマを厳密に絞らずに行っただけに、やや散漫な印象を与えたのではないかという危惧である。また、医療機関以外の共同作業所・就労支援施設・地域活動支援センター等の案内ができず残念な気持ちも残る。しかし、研修生は母語の違いを気にせず積極的に質問し、屈託の無い笑顔を見せながら研修を楽しんでいるという印象を受けた。今後も様々な方法や手段を通して、楽しみながら交流が深まっていくことを願いたいと思う。

## 研修生を受け入れて

東邦大学医学部看護学科 3年 蛭田彩加

昨年東邦大学とチェンマイ大学の交流プロジェクトが始まり、今回が初めての受け入れであった。有志をつのって集まった16名のボランティアが、研修期間中、各日数名ずつ担当し観光案内および交流を行った。

私が昨年このプロジェクトでチェンマイ大学へ行った際、学生ボランティアをはじめ学生、先生方が親切に温かくもてなしてくださったおかげで、緊張も和らぎ、楽しく交流ができた。そのため今回はお礼と感謝の気持ちをこめて、楽しく充実した研修となるよう、学生ボランティア間で話し合い、受け入れ期間中の計画を立てていった。また、昨年お世話になった学生とメールや手紙でやりとりしており、その学生が今回のプロジェクトに参加することになったため、日本に来てどのように過ごしたのかなどの意見を聞くことができた。研修生は病院見学や講義を受けた後の交流、観光であり、混雑していて慣れない電車やバスでの移動中はさすがに疲れている様子が見られたが、お目当ての場所に着くと真っ先にデジカメを手に写真を撮り、感激している様子や散策しながら気になったお店に寄るなど、日本の学生と同じ感覚であったため、一緒に楽しむことができた。私たちはこうして浅草、原宿、渋谷、横浜、秋葉原、東京タワー、東京ディズニーランドといった有名スポットを観光してきたが、各々買い物をしたり、好きなことをして楽しんでもらえたようであった。

ある日、国際看護学の講義の中で、研修生の一人が代表でチェンマイ大学の紹介をしてくれた。彼女は流暢に英語を話していたが、聞いている学生たちはざわめきだし、「もう少しゆっくり話したほうがいいですか」と周囲の様子を気にしながら話していた。紹介を終え、質問の時間を設けたが、誰も質問や意見を言ってくれず、反応がなかった。彼女はそのことに対し、自分の説明不足だったのか、話し方がよくなかったのかなどと落胆した様子で、聴講していた私に何がいけなかったのかと意見を求めた。私は「あなたの英語は丁寧だしとても聞き取りやすかった。でも日本の学生は、講義の中で質問に対する答えや意見を求められても、恥ずかしがって言いたがらない。ましてや慣れていない英語で話すことはもっと難しいと感じ、意見を言うこともあきらめてしまうのだ。」と答えた。それは私もそうであるが、日本人はそういった傾向がある。この答えに対し彼女はあまり納得できていないようだったが、彼女の思いを聞いて私も今後は改めようと思った。研修生との会話はすべて英語で行われたが、私は流暢に英語を話せるわけではない。英語の試験の点数が良い人が、英語を流暢に話せるとは限らない。これまで中学、高校、大学で英語を学んできたが、スピーキングイングリッシュはあまり重要視されていないのが現実である。しかし、知っている言い回しや単語をつなぎ合わせれば、十分に会話ができ、意見が言い合えるのである。はじめは簡単な会話だけであったが、次第に仲良くなっていき、お互いの国のことや大学のこと、将来のことなど様々なことを意見し合い、情報交換することができた。スピーキングイングリッシュに自信のなかった私でも、真剣に聞いてくれる相手がいれば、自分の意見を必死に伝えようとする姿勢があればしっかり伝わることがわかり、またそのときの達成感が自信にもつながっていった。外国人に対してだけでなく、説明が下手だとしても、大勢の人のいる中であっても、意見を求められたときは恥ずかしがらずに自分の意見をしっかりと伝えることを大事にしていこうと思った。

私たちは今も連絡を取り合い、近況報告などを続けて交流を深めている。この出会いを大切に、これからも互いに刺激し合いながら、日々勉学に励んでいきたい。

#### 4. 研修風景



10月4日  
TG642にて成田空港着



河南科技大学看護師と  
ともに



東邦大学医療センター  
大森病院にて電子カル  
テの説明を受ける



国際看護学 講義受講  
文化交流にてタイ舞踊  
を2年生に披露



2年生にチェンマイ大学  
看護学部を紹介



基礎看護学演習に参加





茶道部有志によるお点  
前に参加



来日研修修了式

## 国際交流委員会

委員長	岡田 敦子
副委員長	野崎 真奈美
委員	量 倫子
	佐山 理絵
	細谷 幸子

---

### 平成 21 年度 チェンマイ大学看護学部来日研修報告書

発行日 平成 22 年 1 月 15 日

発行 東邦大学医学部看護学科 国際交流委員会

〒143-0015 東京都大田区大森西 4-16-20

TEL 03 (3762) 9881

---